

# 日本数理科学協会会報

32 / 2003 . 9

編集委員 藤井正俊 (委員長) / 藤井淳一

## 目次

- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| * 海外会員の研究集会と JAMS の経理について | * JAMS 2004 年 会費納入のお願い |
| * 理事会・運営委員会議事録            | * JAMS 会員募集            |

## 海外会員の研究集会と JAMS の経理について

国際研究推進委員会 (井関清志、西田俊夫、高橋渉、石原忠重)

JAMS には 100 名を越す海外正会員がいますが、今日までこれらの方々は、JAMS の研究集会についての便宜はまったく得られていませんでした。

一方この頃漸く、光ファイバーが普及し始め、また従来高価であった e-learning system が安価になり、大学では容易に入手できるようになってきています。

それで JAMS では、海外会員の研究集会参加を図るために、

### 1 国内の研究集会については

1. 事前に News Letter、WWW や E-mail で英語プログラムを配布する。
2. 日本国内の研究集会に、自国の Video Conference System を通じ、参加を希望する海外会員があった場合は、海外会員が参加できるように調整してやる。また、英語による講演を増やしてやる、等できるだけ多くの参加者が出てくるように図ってやる。
3. 英語講演を海外から Access しやすい時間帯にまとめて行ってやる。
4. なお、Video Conference System は国内の遠隔会員についても、もちろん便宜を与えるものである。

### 海外に対しては

1. 海外会員が Organizer となる集会を後援する。(The World Scientific and Engineering Academy and Society : pronounced "w"-seas) WSEAS。この学会は、非常に頻繁に、数力国で時に並行で研究集会を行っている。(ただし、どれも Assembly 型集会である) WSEAS は世界で 6ヶ所に Office を持ち、24 人の Director がいる。  
他の一般の学会と違って、本来 Global な組織の学会であり、Global な研究交流を図らんとする JAMS の参考になる組織である。
2. 海外の Organize する学会での JAMS の主たる仕事は
  - (a) 予稿を JAMS に掲載する
  - (b) その他、全部の Site の Headoffice 役である。
3. さて JAMS では海外会員 100 名に加えて海外 Editor 40 名位、Plaza 海外寄稿者 40 名位と、ここ 2、3 年の海外からの SCMJ への論文掲載者 40 名、合計 220 名程の関係研究者について、環境を整えた Site から、順次交流網を作り、積極的な相互の研究推進を図りたい。このために

<sup>2</sup> Video Conference 環境の調査

<sup>2</sup> 専門別の Global Group 名簿の作成・配布等を行いたい。

4. 環境整備、システム改良の助走期間（なしくずしの立ち上がり期間）として 2003 年から 2007 年までの 4 年間位を見込むと、丁度 MJ 創刊 60 年の 2008 年頃から本格稼働できると予測できる。

#### JAMS 経理面からの要請

MJ-SCMJ の販売額がかなり減ってきています。AMS の Publisher（諸出版物の総括責任者）Babbitt 氏が「General Journal は存続が難しくなっていくだろう」と AMS、Notices、1997 年 1 月号で予測（JAMS の会報 No.7、1997 年 4 月発行、にその話を紹介）してから、6 年半経っているが、彼の世界の雑誌についての予測は広く当たっていて、General Journal SCMJ にも該当している。

一時毎号 1000 部弱の印刷部数を標準としていたヤポニカは今、550 部位にまで減っている。これは主として大学図書館、書店（結局は海外大学の図書館に入る）の購買部数の減少によるものであり、国内大学向けの販売数も、独法化の国公立大学、少子化の私立大学は購読雑誌を減らしてきており、今後とも減っていくものと予測される。

なお、SCMJ の大学会員の購入費は ¥30,000、機関会員は ¥33,000 であり、これは多くの外国誌の値段に比べて大変安価である。手許の資料（紀ノ国屋書店 1999 年）から下表の数例を見れば、多くの海外誌が SCMJ 誌との交換で入手できれば、大学の購買費のかなりの節約になるはずである。

American Journal of Mathematics	6N	¥42,500
Bulletin of London Mathematical Society	6N	¥52,200
Canadian Journal of Mathematics	6N	¥67,800
Combinatorics,Probability&Computing	4N	¥38,500
Commentari Mathematici Helvetici	4N	¥46,100
Communications on Pure&Applied Mathematics(NY)	12N	¥288,500
Compositio Mathematica	15N	¥190,000
Cybernetics&Systems	8N	¥140,500
∴	∴	∴

もちろん JAMS では、General Journal SCMJ の出版以外に出版物を計画する等、SCMJ の出版のみの収入に大きく頼る経理から種々の脱皮を図っているが、出版・販売だけでは将来は経営が持たなくなる恐れが十分ある。

学会運営経理の基本である、会員の増加、会費収入の増大に立ち返るべきであり、努力をすべきである。

我々はまず、内外会員の、それぞれ 100 名増、即ち国内会員を 400 名に、海外会員を 200 名に持っていきたい。そのためには、今まで無視されてきた海外会員の研究集会を上記のように立ち上げ、こういった集会の利用による研究推進をこの際確保してやる必要がある。

また、この IIVMS が確立されれば、JAMS が真に Global かつ Unique な学術団体として広く認められ、確実に永続的な経理改善の基礎が築かれるものと期待している。

理事会・運営委員会議事録

藤井淳一

日時 2003年9月4日(木曜日) 午前10時から

場所 大阪府立大学・学術交流会館

I 「報告事項」

1. 2002年度の事業報告と決算報告 (事務局・石原先生)

4月理事会で報告し、会報に掲載済みである。

2. 2003年度の現状報告 (IT会議について、他)(事務局・石原先生)

2003年6月、堺市にも漸く光ファイバーが入ることになり、JAMS事務局のInternet回線も今までの128k専用線から100Mbpsにかえることになった。これに伴い、Serverの切り換え(DION! OCN)、Domain名の増設、IP Addressの変更を行った。Serverの設定や立ち上げ、その他SEの仕事は従来のDoctor Courseの学生からProfessionalの方に依頼出来ることとなり、JAMSも漸く、本格的Broad Band時代に対応する学会に脱皮することになった。

丁度Fixed Point Theoryの研究集会のCo-organizer、Prof.RusのCluj大学はVideo Conferenceが可能との一応の返事を貰ったので、2003年11月末から日本国内(阪大工、東工大、九大理、千葉大理)はSCS(Space Collaboration System)で結び、海外とはSonyの遠隔Video Conference System(PCS-1)でCluj大、その他を結び、両者の接続はKey Station 阪大工学部八木厚志教授の所で、約1週間(11月27日(木)、28日(金)はWWWで、12月2日(火)、3日(水)、4日(木)はSCS + PCS-1で)最初のVideo Conferenceを行ってみる予定で、計画を立て、その際のSonyのPCS-1 Systemは協会で購入、Key Stationに貸し出すことになる予定である。

ところで、AMSのMathematics Calendarでは、今年7月は74個、8月は43個のSpecial Research Groupの会合がある。これらは従来通りのAssembly型集会だが、Broad Bandの普及と共に、世界の学会がITを使ってJoint Meetingを費用を掛けずに簡単に開けるように、急激に変わって行きそうである。

上記の変更に伴い、支出備品代(別記事決算予算表参照)に通常40万のところ、320万をソニーのPCS-1に当てる予定で、360万計上してある。差しあたりルーマニアCluj大とのやり取りに使えるかどうか検討中であるが、ルーマニアにはソニーのサービスステーションがなく、近くの他国のステーションからつなぐために光ファイバーシステムが必要であることなど、実施可能かどうかの問題点も多い。JAMSの資産としては、設備投資には問題がないが、このようなハード面の問題や、(実際に使えることになれば希望者は増える可能性が高いが)使用の希望者がどの程度いるか等の問題も有る。このシステムは、ITUの国際規格にそっているので汎用性は高いものの、まず実際のやり取りに使えるかどうか問題なので、それがクリアされるまでは、このシステムは導入されない。使えることがわかれば、今年度中にシステムを導入するので、国際集会をやってみよう、参加しようという方はこのシステムをどしどしお使い下さい。費用はほとんどかかりません。

### 3. その他 米国ドクターの就職数について (事務局・石原先生)

数学ドクターの未就職率は (AMS Notice の記事のように) 1991 年以来、1994, 1995 と多くなってきて大変だったが、その後現在まで著しく改善されてきた。この改善の原因の一つが、専門領域の変化であり、たとえば、2001~2002 では、Statistics/Biometrics が大変多くなったことである。この資料にはない、OR や情報科学も含めて、JAMS のレパートリーは将来性に富んでおり、AMS の実績は参考に値する。

## II 「協議事項」

### 1. 2004 年度予算および事業計画

予算表は 6 ページを参照。

2004 年には 6 月下旬から 7 月上旬の間に上と同様、国内外を結ぶ Video Conference を、また 9 月には神大発達科学部で集合型の年会を開催する予定である。また、総会、運営会議 (理事会)、も便宜のある場所で Video Conference で行うことになるかもしれない。

SCMJ の出版事業については、2003 年、2004 年共に例年通り、年間 6 号 1200 ページを発行するが、会報 31 号で Announce したように、2003 年 Vol.57 の 1 月号は 4Group の Special Section、Vol.58 の No2 は BioCompo 特集号になる。後者については、Springer が生物部門を出版することになり、数学部門を JAMS から出すことになった。2004 年度 Vol.59 の 2 号は、公理的集合論の Special Issue、Vol.59 の No.2 は日本、チェコ研究会の Special Section が加わる予定である。

### 2. 協会の抱える問題点について

#### (a) 会則、特に総会について (米田理事長)

JAMS の会則はもともと他の学会の会則を雛型に作成されたが、学会の規模、活動内容が微妙に異なっており、現状では JAMS の活動にとって不都合が発生し、特に総会の規定会則 (12 条) が重くのしかかっている。

JAMS の活動の中心は SCMJ の発行であり、それ以外に年会の名のもとに、各グループの集会の会場の世話等をしている活動が主体である。総会を開いて、いちいち承認をいただかなければならない活動はほとんど無く、財政状態の報告が総会での中心議題になる。会員が JAMS の活動 (財産管理を含め) にいかに意見を述べ、それを生かすことのできる総会に変わるシステム、方法、手段を作り出す必要を感じている。ホームページを生かした運営への参加などを考えないと、会則と実状との乖離が激しくなり運営に支障をきたすことになりかねない。

しかし、一方でウィルスやスパムメールの急激な増加等で、メールやホームページによる重要事項の協議も難しい面がある。

ところで総会自体は学術団体として年に 1 回は規定上必要であり、主要な協議事項である予算決算等は必ず会報に掲載されることもあって、「持ち回り会議」として、会報で原案を公表し、異議を唱えられるシステムが現実的なようである。さしあたり 2003 年持ち回り総会を次の形で行う。

#### 2003 年度 JAMS 総会について

すでに理事会報告で述べましたように、2003 年度総会は理事会の後、開かれましたが、出席者少数のため成立しませんでした。

JAMS の運営方針等重要事項は、総会の承認を必要とし、「学術研究団体」の条件からも外れることとなります。これを避けるために「総会」に代わるなんらかの方法で会員の意思を問わざるをえません。よって今回は次の手続きにより、総会を開いたこととしたいと思います。

- i. 「総会」の議題を「会報」に載せる。(ホームページにも載せる)
- ii. 掲載後、会員からの異議があるかどうかを、期間を十分とって問う。
- iii. 「異議」が会員総数の 1/16 ( $1=8 \text{ E } 1=2 = 1=16$ ) 以上あった場合、再度修正案を会報で問う。

(b) 協力校問題 (米田理事長)

JAMS の活動の中心は雑誌 SCMJ の発行であるが、それをサポートしているのは会員の納める会費と協力校(大阪府立大学、大阪女子大学、大阪大学、大阪教育大学の数理関係の学科)の雑誌交換のための SCMJ 買取である。今大学の法人化によりこの大学によるサポートが、今後どうなるか不透明で、法人化後は現状のようなサポートは望めないだろうと予想される。すでに 2005 年の府大と女子大の合併と学部再編は既成事実で、2004 年の国立大学法人化も着々と進んでいる。実際は 2005 年にならないと JAMS への影響は具体化しないが、財務的には一層厳しくなるのは必至であろうと予想される。

雑誌交換については、現状把握もなかなか困難で、今後どのように分配を変えていくか等、多くの問題を抱えている。世界的な傾向として(AMS の記事等によれば)、図書館のプリント雑誌の購入は減っており、特に General Journal の購入の減少が目立っている。SCMJ についても内外大学の購入が減少しており、国立大学の独法化により更に減少が進むだろう。以上の対策として、

- 2 交換雑誌の拡充、改良。
- 2 参加校に岡山理科大学、鳴門教育大学、神奈川大学を加える。
- 2 交換雑誌の配分は、SCMJ 購入出資分に比例して draft 配分する

等のことを行う予定である。また、JAMS の収入源確保のための対策としては、

- 2 年間購読に加えて、分冊購読を認める。
- 2 専門別 special issues を年に 1、2 回程度出して、分売の対象とする。
- 2 Plaza を専門別にまとめて単行本化し、販売する。

等を今後実施に移す予定である。

(c) 独立法人化後の JAMS 運営計画について (事務局・石原先生)

国公立大学の独立行政法人化が 04、05 年と続く中で、新組織・新経理の枠内で雑誌購入等を行うことになる。これに対応して、JAMS の運営特に、

- 2 刊行物(雑誌、Memoire Plaza 等)の販売、交換
- 2 会費収入および会員の増強

をどう図っていくか、また、

- 2 会員のための国際遠隔研究集会等にどのように便宜を図っていくか
- 2 国内外の関連学協会との Joint Meeting をどう行っていくか

等、JAMS はさまざまな重要課題を抱えており、上記のように解決策を模索し始めている。

しかし、今後更に複雑化する課題に対応していくために「事業計画委員会（仮称）」を立ち上げて、2005年4月から活動してもらいたいと考えている。なお、この委員会の委員長には、MJ 発刊の当初からの変遷を知り、実行力に富む西田俊夫先生が最適と考え、内諾を得ている。以上の事項があわせて提案され、了承された。

2004年度決算、予算表（2003.1.1 ≫ 2003.6.30）

収入

科 目	03 年度予算	03 年度予算修正	04 年度予算
前年度繰越金	5,253,484	5,253,484	2,835,484
刊行物頒布代（書店）	3,000,000	3,000,000	3,000,000
会員有料頒布代			
会費			
機関会員 A	3,600,000	3,600,000	2,100,000
機関会員 B	132,000	132,000	66,000
機関会員 C			
賛助会員（国内）	1,900,000	1,900,000	1,900,000
正会員（国内）	1,800,000	1,800,000	1,800,000
SCMJ 頒布代			
正会員（国外）	200,000	200,000	400,000
ページチャージ（国内）	800,000	80,000	600,000
ページチャージ（国外）	100,000	100,000	300,000
（イ）事務機購入積立金取崩分			
（ロ）減価償却積立金取崩分			
（ハ）回転資金取崩分			
預金利子		0	
文部省補助金			
雑収入			
合 計	16,785,484	16,785,484	13,001,484

支出

科 目	03 年度予算	03 年度予算修正	04 年度予算
通信交通輸送費（イ+ロ+ハ+T）	2,200,000	2,200,000	2,200,000
（イ）編集通信交通費	0	0	
（ロ）査読通信費	0	0	
（ハ）抜刷等輸送費	0	0	
（T）組版交通費	0	0	
印刷費	1,500,000	1,500,000	1,300,000
組版委託費	1,300,000	1,300,000	1,300,000
消耗品代	30,000	30,000	30,000
備品代（OA 機器 soft 等）	400,000	360,000	400,000
人件費	3,000,000	3,000,000	3,000,000
借事務所代	1,300,000	1,300,000	1,300,000
電話代	550,000	550,000	550,000
振込料	20,000	20,000	20,000
シ - U 手数料			
会報代（含送料）	50,000	50,000	50,000
研究集会費	400,000	400,000	300,000
基礎財産へ繰入			
予備費等	6,035,484	2,835,484	3,721,484
次年度回転資金			
次年繰越金			
合 計	16,785,484	16,785,484	13,001,484

JAMS 2004 年会費納入のお願い

会費納入のお願いの時期になりました。

大学変動の厳しい時期ですが、2004 年度 (2004.1.1»2004.12.31) の会費納入方よろしくお願  
い致します。2004 年からいよいよ研究 Group の国際交流を組織的な形で始められる見込み  
で、皆様の研究の推進に役立ってくれればと念じております。

表 1:

	Regular 1-year m.	Regular 4-year m.	Author mem.	Temp. mem.	Inst. mem.	List Prices
Print/year	¥6,000 \$60	¥5,500 \$55	¥6,000 \$60	¥18,000 \$180	¥33,000 \$300	¥45,000 \$400
Print/issue	¥1,000 \$10	¥1,000 \$10	¥1,500 \$15	¥4,500 \$45		
Online/year	Free	Free	¥6,000 \$60	¥12,000 \$120		
Online+Print /year	¥ 6,000 \$60	¥ 5,500 \$55	¥9,000 \$90	¥25,000 \$250	¥45,000 \$420	¥57,000 \$520

表 2: Membership Dues for 2004

Japan	Overseas (Reciprocity members)	
A1 : ¥7,000	F1 : US\$50	F4 : US\$165
A4 : ¥22,000	S-F4 : US\$30	S-F4 : US\$100
S-A1 : ¥3,500	D1 : US\$30	D4 : US\$100
S-A4 : ¥11,000	S-D1 : US\$20	S-D4 : US\$70

但し A 会員は正会員をさし、S 会員は学生会員と高齢会員 (70 才以上) をさします。カ  
テゴリー D は東ヨーロッパ、ロシア、開発途上国に在住の方とします。

1. e-mail address の member@jams.or.jp は、廃止しました。
2. 4 年会員で既に会費納入済みの方は、同封の払込み取扱票を破棄して下さい。
3. e-mail で会費の照会などをされる方は、trsr@jams.or.jp を御使い願います。

